

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:工学部・工学研究科

| | | |
|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| 【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価 | 【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価 | 【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定 |
| S | A | S |

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

| 項目 | 評定 | コメント(評定に至った主な理由) |
|--------------|----|---|
| 【教育】 | S | <p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>高大連携に関するプログラムについて、部局独自のプログラムを含めて計5プログラムを実施・参画し、延べ76研究室の教員が各種プログラムを提供・担当し、延べ124校・384人の高校生に対して大学レベルの教育研究に触れる機会を提供したことが高く評価できる。また、学業や研究、進路などについて悩んでいる学生をサポートするため、「レジリエンス・サポートルーム(学生支援室)」を開設し、延べ280人以上の学部学生・大学院学生が利用するとともに、当該学生に対して必要なレジリエンスの向上を図るため、ヨガ教室及びコミュニケーションスキルUP講座等を実施したことが評価できる。</p> |
| 【研究】 | A | <p>平成29年度計画の達成状況が良好である。</p> |
| 【社会貢献】 | S | <p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>大阪大学教員から初の企業へのクロスアポイントメント1件、企業から大阪大学教員へのクロスアポイントメント2件(内、女性2件)を実施し、人材の好循環を推進し、人事・給与制度の柔軟化に取り組んだことが評価できる。</p> |
| 【グローバル化】 | S | <p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>平成31年度から電気電子情報工学専攻に新たな英語コース「グローバルサイエンス&エンジニアリングコース」を開設することを決定し、学生募集を開始したことが評価できる。また、計9大学・12部局との間において、10種類のダブル(トリプル)・ディグリー・プログラムを運営していることが評価できる。</p> |
| 【業務運営】 | A | <p>平成29年度計画の達成状況が良好である。</p> |
| 【広報】 | S | <p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>平成29年度から新たにSNSによる広報活動を開始し、Facebook、Twitter、Instagramを立ち上げている。工学部・工学研究科の日常を取り上げ、受験生に工学部・工学研究科を身近に感じてもらうための工夫を行っていることが評価できる。</p> |
| 【キャンパス環境】 | S | <p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>本部(施設部)での検討に先駆けて、インフラ長寿命化計画策定のため基礎調査を実施したこと、部局独自の予算により補助制度を設け、省エネに資する設備更新を実施するとともに、その効果を試算したことが評価できる。</p> |
| 【情報ネットワーク環境】 | A | <p>平成29年度計画の達成状況が良好である。</p> |

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
 ダブル・ディグリー・プログラム協定、クロス・アポイントメント協定ともに新規で締結したことや、締結数が非常に多く大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。
 また、6週間の海外(モナシュ大学)英語研修プログラムを組み込んだ授業科目「理工系英語基礎海外演習」を国際交流科目として開設するなど、外国語力の基準を満たす学生数の増加に取り組み、実績を向上させていることが高く評価できる。